

1 学校教育目標

人間尊重の精神に基づき、「研学・実践・誠実」校訓のもと、真理を追究するとともに社会の変化に主体的に対応できる生きる力・自己教育力を培う。創造力と実践力に富み、誠実で豊かな心を持って、たくましく生きる人間の育成を目指す。

2 学校の特徴

本校は定時制単位制単独高等学校として、高岡駅前ウイング・ウイング高岡のビル内にあり、富山県民生涯学習カレッジ高岡地区センターを併設する生涯学習機能を合わせもつ学校である。

設置学科は昼間制にⅠ部普通科、情報ビジネス科、Ⅱ部情報ビジネス科、生活文化科、夜間制に普通科、国際教養科を有する。単位の認定、入学、卒業は前期、後期の2期に分けて実施し、「働きながら学ぶ」「自ら計画したペースで学ぶ」など、時代の変化や新しいライフスタイルに柔軟に対応するようなカリキュラムを編成している。また、通信制課程の併修、高等学校卒業程度認定試験、ボランティア活動、技能審査の成果などの一部も単位として認定し、生徒の多様な学びを尊重しており、少人数制によるきめ細かな指導も特徴的である。さらに、高校生と社会人がともに学ぶ「共学講座」の実施は、世代を超えた学びあいを創出し、効果的な教育を実施している。

3 学校の現状と課題

本校は小・中学校において不登校経験を持つ生徒、全日制高校を中途退学した生徒、外国籍の生徒等、多様な経歴や価値観を持ち、学習意欲にも大きな格差が見られ、様々な支援を要する生徒が学んでいる。

このような現状を踏まえて、生徒一人ひとりの夢を実現させるべき学びの場として、研究を重ねてきた学校全体のユニバーサルデザイン化、インクルーシブル教育のさらなる充実、個々に応じた合理的支援とキャリア教育を組織的に進め、その機能を果たすことが課題である。

- (1) 個々のレベルに応じて学習意欲を高め、基礎学力の定着を図り、「思考力・判断力・表現力」を育むため、A L型授業の研究を教員間の互見授業により進め改善する。専門学科では、各種検定の合格率を高め充実感を持たせる方策を行う。
- (2) 多様化する生徒の支援のため、職員間で情報の共有し、必要に応じて個別の指導計画を作成して自立活動を充実させる。また、S C・S S Wを活用した教育相談の充実、専門機関等との連携により、生徒の様々な悩みや学習環境に働きかける合理的支援を行う。
- (3) 望ましい勤労観・職業観を養い、進学や就職に対する意識、意欲を高めるため進路ガイダンス等を、入学当初から年次に応じた内容でキャリア教育を実践する。第1希望への進学、就職の内定等の進路実現に積極的な支援を行い、加えて4年制大学への進学希望者に対して個別指導を行う。

4 学校教育計画

項目	目標・方針及び計画	
学習活動 重点1 (教務部)	目標	・<u>単位修得率の向上（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る）</u> ・<u>生徒の学習実態を把握する</u>
	計画	・『<u>学習・生活の手引き</u>』の「<u>毎日の授業の記録</u>」の活用を図り、授業に参加することの意義を認識させる。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒一人一人の学習歴、学力、興味関心などを把握し、学習指導を推進する。 ・生徒に意欲を持たせる授業が展開できるよう、生徒の実態をより正確に把握する。 ・<u>生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を実施する。</u>
学校生活 重点2 (生徒指導部)	目標	・<u>健康で安全な生活を送るため、基本的生活習慣の確立と心身の調和的発達を図る。</u> ・<u>社会的責任や役割を自覚して行動ができるよう協調性・自己管理能力を育成する。</u>
	計画	・<u>あいさつの励行と自らの行動や態度に責任を持たせる指導に取り組み、家庭や地域との連携を密にしながら、基本的生活習慣の定着を目指す。</u> ・<u>全校集会やホームルーム等を効果的に活用し、規範意識の向上や社会性を育む環境づくりに努める。</u>
学校生活 重点2 (保健・教育相談部)	目標	・<u>生徒に心身の健全な生活を送る必要性を認識させると共に、教員が心身に不調を抱える生徒に対して共通理解を図り、支援を行う。</u> ・<u>学校環境を整え、衛生意識、美化意識を高めることで、心の育成を目指す。</u> ・<u>学校全体がユニバーサルデザインに取り組むように推奨する。</u>
	計画	・保健行事や保健指導を通して、心身の健康に対する理解と関心を深める。 ・<u>問題を抱える生徒に対して迅速な対応をするために密に情報交換を行い、必要に応じて検討会を開催する。</u> ・<u>教職員、生徒対象の研修会を開催する。</u> ・毎月1回美化の日を設定し、重点項目を決め、一斉清掃を実施する。 ・職員を対象としたユニバーサルデザインに関するアンケートを年2回実施する。
進路支援 重点3 (進路指導部)	目標	・<u>生徒や家庭・地域の実態を適切に把握し、一人ひとりが将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する力を育成する。</u> ・<u>「自分の生き方」や「将来の進路、働き方」について考え、将来展望に立った自己実現に努めさせる。</u>
	計画	・<u>1年次より計画的、継続的な進路指導を行い、ガイダンス・個人カウンセリングを充実して、生徒の職業観の育成を図る。</u> ・保護者会やPTA総会、「志高だより」等により、保護者と進路についての共通理解を深める。 ・<u>就職支援教員、関係機関との連携による就労支援を進め、企業訪問や公共職業安定所との連携を通し地域の雇用情勢について把握をする。</u> ・大学等への学校訪問を行い各校の入学試験についての動向や教育活動について情報収集をする。 ・職場見学やオープンキャンパスに積極的に参加させ、現実的な就労意識を育て早期離職を防止する。 ・企業・福祉施設・保育園等での就業体験を通し勤労意欲を高め、インターンシップ等の実施によりキャリア教育を推進する。 ・進路講話、「卒業生と語る会」などを通してキャリアガイダンスを実施する。 ・普段の授業を充実させ、進路を意識した生活設計を指導する。
特別活動 重点4 (特活部)	目標	・<u>学校行事、生徒会活動、ホームルーム活動、そして部活動を通して心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、よりよい生活を築こうとする自主的、自立的な態度を育て、明るく健全な学校づくりを目指す。</u> ・ボランティア活動を通して地域社会との連携を深め、社会参加・社会貢献への意欲と関心を高める。

	計画	・学校行事、ホームルーム活動の活性化を図り、生徒が主体的・意欲的に関われるよう工夫する。 ・生徒の自主的に活動する能力、態度の育成を図るため行事の運営を工夫し、生徒の満足度の向上を目指す。 ・部活動の積極的な加入、活動を促し、充実感や目標の達成感を味あわせるとともに、年次の枠を超えた良好な人間関係を育てる。 ・保育園や障がい者施設への訪問、七夕祭りや高岡なべ祭りなど地域行事へのボランティア活動を通して、社会参画意識の向上に努める。
特別活動 重点4 (図書部)	目標	・生徒図書委員の自主的な活動を推進するため、生徒主体の研修を実施する。 ・学科、教科との連携、学習や研修に役立つ資料の充実を図る。
	計画	・生徒図書委員の育成と生徒の自主的な図書館活動の推進を図る。 ・市の図書館と連携し、読み聞かせボランティアを実施する。 ・生徒の自主的学習や教職員の研修のための図書館資料の整備と充実を図る。
検定取得 重点5 (情報ビジネス科)	目標	・ビジネスに関する専門的な知識と技術を習得して、その意義や役割についての理解を深め、社会の発展に対応できる創造的な能力と実践的な態度を育てる。 ・体験的な学習を通してビジネスの諸活動を主体的・合理的に行う実践力と望ましい職業観・倫理観を養い、人間性豊かで社会の変化に適応できる人材を育成する。
	計画	・情報やビジネスに関する科目の基礎的・基本的な知識と技術の徹底を図る。そのために生徒の実態に応じた授業内容の創意工夫を図り、生徒の教科に対する興味関心と学習能力を高める。 ・自主的、自発的な学習態度の育成に努め、各種検定試験にも積極的に取り組み、合格を目指す。 ・体験的な学習の機会を多く提供し、ビジネスの実践的な対応力と多様なビジネス社会への適応力を育てる。 ・授業で学んだビジネスの知識や技術を、現実の社会や環境の変化に対応できる能力の育成や、各自の進路選択やキャリアアップに活かせるためのキャリア教育を充実する。
検定取得 重点5 (生活文化科)	目標	・生活産業における将来のスペシャリストとして必要な知識と技術を身につけさせる。
	計画	・家庭科の各科目において、体験的・実践的学習を展開し、基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、各種検定試験の合格を目指して意欲的に取り組ませる。 ・生徒の実態に即した授業内容により、学習意欲を高め、自発的・創造的に学習する態度を育てるとともに課題解決能力や社会への適応力を身につけさせる。 ・家庭クラブ活動を主体的に企画・運営させ、積極的に参加させる。
I C T (情報管理部)	目標	・I C Tを活用するための知識と技能を習得し、社会の情報化の進展に主体的に対応できる基本的な能力と態度を育てる。 ・プライバシーや情報セキュリティに関する理解を深めネットワーク社会におけるモラルとマナーに対する責任を自覚させ情報化社会に参加する態度を育成する。 ・ネットワークを利用して、学校の情報を積極的に発信する。
	計画	・I C T機器の充実と活用を図る。 ・情報モラルの意識を高め、情報セキュリティの理解に役立つ研修等を企画し、情報スキルの向上を図る。 ・情報設備や機器の適切な保守管理を行い、ネットワークの定期的な点検を実施して障害を防止し、安全なシステム運用を行う。 ・システムやネットワークの障害発生時に迅速に対処して、トラブルを防止する。 ・ホームページやブログを活用し、学校の活動を外部に紹介する。
P T A (総務部)	目標	・P T A活動に対する一般会員の関心を喚起し、参加者数と参加機会を増やす。
	計画	・生徒の進路や家庭に関することなど、保護者の興味関心にあわせた活動内容を設定し、参加意欲を高める。 ・「志高だより」を通して、P T Aの活動内容を積極的に広報する。 ・文化祭での展示作品やチャリティバザーの提供品などについて、早い時期から協力を求めるようにする。
進路支援	目標	・各年次に即した進路ガイダンスを行い、進路希望を実現させる。 ・必要最低限の学力をつけさせるとともに、社会への参加意欲を高めさせる。

(普通科)	計画	・生徒の実態に即した教材を精選し、基礎基本の指導を徹底して学習意欲を高めるとともに思考力、判断力、表現力を育てる。 ・学習と勤労の両立に適応できる学校生活を指導する。 ・生徒の進路希望を実現するため、各年次や進路指導部と連携して卒業までを見通した学習指導を行う。 ・検定等に意欲的にチャレンジさせることで進路意識の高揚につながるよう努める。 ・学び直し科目を設定することで、基礎学力の定着を図る。
学習活動 (国際教養科)	目標	・世界の国々の文化や伝統を理解し、尊重する態度を育てるとともに、コミュニケーション能力を高め、国際社会に必要な基礎的素養を培う。
	計画	・国際化にふさわしい知識や教養を習得させるために、学校設定教科「国際」の授業内容や「教養講座」等の行事の充実を図る。 ・環日本海諸国の言語を第二外国語と位置づけ、その学習を通して各国の文化に対する理解を深めさせるとともに、日本社会について考える態度を育成する。 ・国際社会で活躍できるマナー・表現力・コミュニケーション能力の伸長を図る。 ・資格取得等に意欲的にチャレンジさせる。
学校生活 (1年次)	目標	・多様な生徒の個性や適性を見出すとともに、自立的な態度を育成させる。 ・自己理解を深め、進路意識を育みながら学力の向上に努めさせる。
	計画	・面接や個別指導を通して生徒理解を深める。 ・高校生らしい品位・身だしなみの確立を図る。 ・基本的な生活習慣確立のため、生徒の出欠状況を逐次把握することで欠課や遅刻等の防止をはかる。 ・基礎学力を身につけさせるとともに、進路意識を高める。 ・環境美化や交通安全への意識を育てる。 ・保護者、各分掌、関係機関との連携を密にして、生徒の実態把握に努める。
学校生活 (2年次)	目標	・中堅の年次としての自覚と責任を促し、自立的な態度の育成と基本的な生活習慣及び学習習慣を養う。 ・生徒の個性・適性を見出し自己理解を深めさせるとともに進路意識の向上を図る。
	計画	・高校生らしい品位・身だしなみの確立のため、定期的に頭髪服装指導を実施し、自覚を促す。 ・生徒の出席状況・学習状況を把握し、個別面接を通して、基本的な生活習慣や学習習慣を確立させる。 ・個別面接や家庭・関係機関との連携を通して、生徒理解を深め、個々の生徒に応じた指導を行い、生徒の自立的態度を育成する。 ・進路ガイダンスや進路見学等を利用して自己の適性や能力の理解を深めさせ、それに基づいて進路意識を高める。
進路支援 (3・4年次)	目標	・卒業年次としての自覚と責任を促し、自己の進路実現をめざして努力しようとする意欲を高める。 ・自律心および欠席・遅刻を少なくする基本的な生活態度を育成する。
	計画	・HRや面接週間、放課後等の時間を確保し、具体的な進路決定に向けて、適切な進路情報を提供し、一人ひとりに応じた細やかな面接指導や補習指導を行う。 ・進路意識の向上を図るため、担任以外の教員による面接指導を行う。 ・生徒理解に努め、進路実現に向けて保護者との連携を密にする。 ・進路指導部と連携して、ガイダンス・検査・面接・講話等を計画的に実施し、自己の適性や能力を自覚させ、進路意識の高揚を図る。 ・会社見学や学校説明会に、自覚を持って参加するように指導する。 ・生徒指導部と連携し、定期的に頭髪服装検査を実施し自覚を促す。
学校生活 (夜間制)	目標	・個々の生徒に応じた指導を心がけ、学習に対する興味と意欲を高める。 ・正しい生活習慣や食習慣を身に付け、規則正しい生活を送ることの大切さを認識させる。
	計画	・社会生活を送る上で必要な基礎的な学力を身に付けさせるために、個々の生徒の能力に応じた指導をする。授業だけでなく個別指導の充実を図り、生徒の進路実現を目指す。 ・勉学と勤労に順応した生活設計を指導し、主体的な学習活動を促す。 ・ホームルームや給食・食育講座等を通して、正しい生活習慣や食習慣を確立させ、規則正しい生活を送るよう指導する。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

平成30年度 志貴野高校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	・単位修得率の向上を図る。（学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る） ・生徒の学習実態を把握する。	
現状	・安易に授業を休む生徒が見受けられる。 ・学習意欲がなく、学習習慣が身についていない生徒が多いように思われる。 ・学力差が生じており一斉授業が難しくなっている。	
達成目標	単位修得率80%以上	「学習時間調査」の実施2回（前期1回、後期1回）
方策	・各科目で「毎日の授業の記録」を活用し、生徒一人一人に出欠の記録を付けさせる。 ・生徒が自らの出席状況を確認することによって、授業に参加することの意義を知る。 ・生徒が利用しやすい『受講ガイド』を作成する。 ・生徒の学力、興味・関心などを把握し、授業に対する興味・関心を引き出す。そこから、生徒の主体的な学びを促し、出席率、単位修得率の向上につなげる。 ・生徒の実態を、より正確に把握するために面接や個別指導を充実する。	・生徒自身にも自らの学習時間・態度を見つめ直す機会として、「学習時間調査」を実施する。 ・家庭での学習時間が充実するように、教材、授業などを工夫する。 ・『学習・生活の手引き』の「毎日の授業の記録」を活用し、生徒の学習実態を把握する。

評価基準 A: :達成した B: :ほぼ達成した C: :どちらかというと達成できていない D: :ほとんど達成できなかった

平成30年度 志貴野高校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活	
重点課題	・品性を高め、基本的生活習慣の確立及び充実した学校生活を送る。 ・支援を必要とする生徒のための校内体制を整える。	
現状	・「時間の厳守」がやや苦手で、始業のベルに間に合わない生徒が若干いる。 ・定期的に生徒校風委員会を中心に「あいさつ運動」を行っている。運動期間中は、自発的にあいさつをできる生徒が多いものの、年間を通し挨拶を交わし合える学校になるためには、あいさつ運動に工夫が必要である。 ・制服の着こなしが甘く、常に声がけが必要である。頭髪については、定期的な検査により染色や加工する生徒が少なくなってきた。 ・自分の健康状態を把握できず、適切な対応をしていない生徒がいる。 ・友達と保護者等との適切な人間関係の作り方を知らないため、学校生活に支障をきたす生徒がいる。 ・授業や行事などで「困り感」を持った生徒が多数いる。	
達成目標	学校生活アンケート(良好またはおおむね良好)80%以上	年に2回実施するユニバーサルデザインのアンケートにおいて、各項目で「できている」のスコアが50%以上を達成目標とする。
方策	・教職員による校内巡視を実施し、学校全体で「時間の厳守」を実行できるようにする。 ・毎月「行動・身だしなみ」の自己チェックを記入させ、自己を見つめさせる。また、服装頭髪指導を定期的に実施する。 ・生徒校風委員の「あいさつ運動」推進や、サイクルリーダーによる「自転車乗車マナーの向上」など、規範意識の向上と実践に向けての取り組みを計画・推進する。 ・「着こなしセミナー」「薬物乱用防止教室」「マナーセンスUP講座」を年次毎に実施し、段階	・新着オリエンテーションでユニバーサルデザインについて説明する。 ・各分掌でユニバーサルデザインに関して工夫できることを考えてもらう。 ・「授業のユニバーサルデザイン」から「学校生活のユニバーサルデザイン」のアンケートに変更する。 ・自立支援に関する教員研修を行う。 ・生徒、保護者、教師のために「共生社会を目指した学校作り」をテーマとした講演を行い、障害の有無に関係なくすべての生徒が学

	的な年間指導課題とする。 ・保護者の協力を得ながら、基本的生活習慣の確立や規範意識の向上を促す。	校生活を安心して過ごすことができるようにする。
--	---	--------------------------------

評価基準 A: :達成した B: :ほぼ達成した C: :どちらかというと達成できていない D: :ほとんど達成できなかった

平成30年度 志貴野高校アクションプラン - 3 -		
重点項目	進路支援	
重点課題	・社会全体や地域の実態を把握して生徒・保護者に対し適切な情報を提供する。 ・年次の状況に応じた進路支援を行い、進路意識の向上と進路希望の実現を図る。	
現状	・地元志向が強く進学も県内及び近県への希望が多い。 ・卒業年次における生徒の状況が年ごとに違いそれぞれに応じた指導が必要となる。 ・進学、就職に迷ってアルバイトを続ける者など進路未定者がおり、早い時期から将来の職業について考えさせる必要がある。	
達成目標	希望する進路の内定率の向上 進路決定率 90%以上	計画的・継続的な進路指導の実施 各年次の進路ガイダンス年3回実施
方策	・就職支援教員、学科、年次の連携を図り、進路指導を組織的に推進する。 ・大学・企業訪問を実施し求人や入学試験の動向など情報収集を行う ・保護者会やPTA総会、「志高だより」等により進学や就職に関する情報を提供する。 ・面接を計画的に実施し生徒の状況を把握する。 ・進路ガイダンス、進路説明会、進路講話、進路意識の高揚を図る。 ・就業体験を通して、望ましい職業観を身につけさせる。 ・生徒の状況に応じた進路情報の提供に努める。	・自己理解を深めさせるため適性検査を実施する。 ・ガイダンスを計画的に行い、主体的に進路を選択する力を育成する。 ・進学、就職に迷ってアルバイトを続ける者など進路未定者に個別指導を行う。 ・進路に関する情報を校内で共有し、進学希望者の意欲が向上するような環境作りに努め、進学者に対する支援体制を充実させる。 ・基礎力向上講座や小論文対策講座を開設し、進学希望者の学力向上に努める。

評価基準 A: :達成した B: :ほぼ達成した C: :どちらかというと達成できていない D: :ほとんど達成できなかった

平成30年度 志貴野高校アクションプラン - 4 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	・学校行事、ホームルーム活動等における生徒の積極的な参加を促す。 ・図書委員会活動の活性化と読書習慣の確立	
現状	・すべての生徒が積極的に生徒会活動や学校行事に参加しているとはいえない。また募金活動、ボランティア活動、保育園や障害者施設での交流に参加する生徒数も減少傾向にある。 ・図書委員会では中央図書館での読み聞かせボランティア、文化祭での展示、図書館だよりの編集を行っているが、自主的に活動する生徒は少なく、参加も特定の生徒に偏っている。また図書館を利用する生徒も限られ、図書の貸し出し冊数も少ない。	
達成目標	学校行事、生徒会行事、ボランティア活動などに参加した生徒の満足率 80%以上	2冊以上本を借りる人数 70人以上
方策	・生徒会を中心に、生徒の意見や要望を行事に積極的に取り入れ、参加意識を高める。 ・事後アンケートを実施し、生徒の満足度や問題点を把握する。 ・満足度の低かった生徒の声に耳を傾け、より多くの生徒が充実感を得ることができるよう工夫する。	・図書委員ミーティングを月1回開催し、生徒主体の研修を実施する。 ・リクエスト帳を活用し、図書委員を中心に読書意欲を喚起する。 ・図書だよりの内容を充実させ、来館者の増加や読書意欲の喚起に努める。 ・新入生にはHRの時間等を利用して読書指導を行い、図書室の利用を図る。

評価基準 A: :達成した B: :ほぼ達成した C: :どちらかというと達成できていない D: :ほとんど達成できなかった

重点項目	検定取得	
重点課題	・専門教科の学習指導の充実と学力の定着を図り、各種検定試験に対して効果的な対策を行い、受験率と合格率の向上を目指す。 ・体験的、主体的な学習の取り組み態度を育成するため、被服、食物、保育、情報の各分野において、各種検定試験に取り組み、合格を目指す。	
現状	・文章の読解力や計算能力など、高校入学以前に習得すべき基礎学力が不足している生徒がいる。 ・簿記や情報処理など論理的思考力や計算能力が必要な専門科目で内容の理解が困難である。 ・生活に関する関心や問題意識が低く、生活経験が少ないため、生活に必要な知識や技術が身についていない。	
達成目標	「情報ビジネス科」 各種検定試験の合格率が受験者の70%以上を目標とする。	「生活文化科」 各年次の科目で実施される各種検定試験に取り組み、受験者の合格率90%以上を目標とする。
方策	・各種検定試験で基本となる3級に着実に合格させ、さらに上位級への関心と意欲を高める。 ・関連する授業の充実に努め、生徒個々の理解に応じた指導や教材の活用を通じて、検定合格を果たす。	・各科目における体験的・実践的学習により、基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 ・各種検定の合格に向けて、自主教材や過去問題等事前学習に取り組ませる。

評価基準

A: 達成した

B: ほぼ達成した

C: どちらかというと達成できていない

D: ほとんど達成できなかった